

資料 4 (4)

「健康日本21」暫定直近実績値に係るデータ分析
(歯の健康)

| 分野: 歯の健康 | | |
|---|--|-------------------------------|
| 目標項目: 6.1 う歯のない幼児の増加(幼児期のう蝕予防) | | |
| 目標値 | 策定時のベースライン値(現状値) (H10年度3歳児歯科健康診査結果) | 暫定直近実績値 (H14年度3歳児歯科健康診査結果) |
| 全国平均(3歳) 80%以上 | 59.5% | 67.5% |
| | コメント | |
| ①暫定直近実績値に係るデータ分析 (データの経緯変化を踏まえた分析や必要に応じ性・年齢階級別データ等による解析) | ①現状値と暫定直近実績値の比較 | |
| | ○現状値と暫定直近実績値を比較すると、4年間に8ポイント増加している(図1)。 | |
| | ②データの経年変化を踏まえた分析 | |
| | ○平成元年の数値が44.2%であり、過去10年間に15.3ポイント増加しているところから、現在の傾向が続けば、2005年には74%、2010年には84%になると推定される。 | |
| ②上記データ分析に基づく今後の課題及び対策の抽出等 | ③詳細なデータ解析について | |
| | ○地域別に見ると、最高が東京都(76.1%)、最低が沖縄県(46.7%)と差が見られる。 | |
| | ○地域差が見られることから、地域の特性に応じた対策を推進する必要がある。 ○フッ化物配合歯磨剤の使用や個別的歯口清掃指導を受けた者が増加していることによる成果と考えられる。 ○合計特殊出生率の高い地域は、第2児以降の割合も高く、そのような地域では3歳児のう歯有病率も高い傾向が見られるので、育児環境面からの対策が必要である。 ○地域の特性により、フッ化物洗口を推進していくことが必要である。 | |

| 分野: 歯の健康 | | |
|---|---|---------------------------|
| 目標項目: 6. 4 一人平均う歯数の減少(学童期のう蝕予防) | | |
| 目標値 | 策定時のベースライン値(現状値) (H11年学校保健統計調査) | 暫定直近実績値 (H15年学校保健統計調査) |
| 全国平均(12歳) 1歯以下 | 2. 9歯 | 2. 1歯 |
| | コメント | |
| ①暫定直近実績値に係るデータ分析 (データの経緯変化を踏まえた分析や必要に応じ性・年齢階級別データ等による解析) | ①現状値と暫定直近実績値の比較 | |
| | ○現状値2. 9歯に対し、4年後の暫定直近実績値では、0. 8歯減少している(図2)。 | |
| | ②データの経年変化を踏まえた分析 | |
| | ○平成2年の数値が4. 3歯であり、過去10年間に1. 4歯の減少をみているところから、現在の傾向が続けば、2005年には1. 7歯、2010年には0. 8歯になると推定される。 | |
| | ③詳細なデータ解析について | |
| | ○地域別に見ると、最低が新潟県(1. 8歯)、最高が沖縄県(4. 7歯)と差が見られる。 | |
| ②上記データ分析に基づく今後の課題及び対策の抽出等 | ○地域差が見られることから、地域の特性に応じた対策を推進する必要がある。 ○4歳児以上については、フッ化物配合歯磨剤の使用やフッ化物洗口などを行うことが有効であるので、地域の実情に応じて推進していくことが必要である。 | |

